時事新報

讀メール新聞

時事新報は國會議員の年齢三十歳以上とあるを二十五歳に減じても妨なからんと論じたれども壯士をして議員たらざらしめんとは矢張り法律を定めたる通り三十歳の方は適當として成るべく用心するとの如き事云々とて過日横濱メール新聞の評論ありしかば我輩は之に答へて年齢の制限を三十歳以上とするときは壯士は之を以て法律を恨むの口實となし若しも廿五歳以上あらば自身も議員たるを得べきならんにとて苦情を鳴すこともあるべし左りとは無益の煩累を招くの次第にして假令ひ廿五歳以上とするも天下の撰擧人は決して壯士に投票するとあるまじければ断然積極的に當撰の區域を擴張すべしと申せしにメール記者は猶ほ未だ之に服せずして一昨日の同紙上に又もや批評して曰く成程壯士が不平を鳴すの事情如何に付ては余輩は東京の新聞記者に一歩を讓らざる可らずと雖も假に余輩をして立法の局に當らしめば彼れ壯士輩の思惑の如きは更に遠慮するを要せず斯る悪民が法律に服從せざらん歟とて物々しく云々するは餘りに立言の過ぎたるものなれは非さるる兎も角も濫に寛大に失せざるは法律の主義として貴すべきものなりと云へり抑も我輩が廿五歳を妨あしとしたるは決して漠然筆に任せて書流したるには非ず事實に照して見る所あるものにして即ち今の府縣會議員は廿五歳以上の定めあれども三十歳以下の議員は概して總數の五分位に過ぎず府縣會すら此の如くなれば況して國會の議員としては一層深く心を用ゐ老人に投票すべきは今日社會の傾あれば壯士輩が當撰せん抔とは所詮、見込あきらめと勿論たるべし然る上は唯徒に三十歳以上と遠慮して無益の煩累を招き將た青年稀有の人材を失はんよりは寧ろ二十五歳として危険ひ所なく政略の大膽を示し併せて積極的の區域を擴張するこそ却て策の得たるものならんと述べたるのみ然るにメール記者の尚ほも不服を唱へらるゝは抑も何等の根據に出たるものか若しも記者の如く唯用心に用心とのみ主張して三十歳を可なりと云はゞ其用心を一層を加へて四十歳以上としては如何、更に五十歳以上としては如何、用心の爲めには至極妙なるべしと雖も其趣を喩ふれば昔しの養生家が過食の害を恐れて四椀よりは三椀に如かず三椀よりは二椀一椀を善しとして更に食物不足の害あるを知らざるが如し經驗の上にていよ〳〵不都合を認むるときは其節に至り改正を加ふべしと申せども事に標準あくして趣向を組立つるに至りては我輩は唯その不思議に驚くの一事あるのみ

官部

○内務省令第六號

北海道廳府縣(沖縄縣ヲ除ク)徴兵參事員手當金並ニ旅費支給規則左ノ通相定ム

明治廿二年四月廿四日　内務大臣伯爵松方正義　大藏大臣伯爵松方正義

支給規則

一　手當金ハ府縣郡市嶋嶼ヲ問ハス出務日數ニ應シ一日金一圓ヲ支給ス

一　旅費ハ左表ノ金額ヲ給ス其支給法ハ明治十九年六月關令第十四號内國旅費規則ニ據ル但地方ノ狀況ニ依リ認可ヲ經テ定額ノ旅費ヲ節減スルヲ得

旅費				
汽車賃	汽船賃	車賃	馬賃	日當
一種毎ニ	一海里毎ニ	一里毎ニ	一日毎ニ	
金六錢	金六錢	金八錢	金七十錢	

○遞信省告示第九十七號

第三種郵便物遞送認可願書ハ副本ヲ要セス

明治廿二年四月廿四日　遞信大臣伯爵後藤象二郎

○海軍公債第四回募集景況報告訂正　海軍公債第四回募集金額算出上誤謬ありし旨を以て更に大藏大臣より内閣總理大臣へ左の如く報告ありたり(昨日官報本欄參看)

海軍公債第四回募集結果の儀本月二十二日附を以報告に及ひ候處申込價格に對する金額算出上金十圓の誤謬あるを發顯致し額面總額に異動無之候得とも實收金額に於て金十圓を增加し即ち金四百萬三千三百九十五圓六十三錢二厘ゑして募入價格額面百圓に付き平均百圓八錢四厘八毛餘に相成候云々

雜報

○英國政治社會の近況　去月廿三日米國紐育發の報に曰く過る一週間内の英國下院は近來珍らしき激動に出て殊さ昨夜擔事長ウェブスター氏の俸給を減ずべしとのレッドモンド氏の動議に對する討論は既に其頂上に達したるものと云ふべし之より先き聯合自由黨の黨員はバーチル審問事件の證據物たる書翰も分明ゑ僞書たる事の顯はれ續いてケンシントン區の補欠撰擧に自由黨が大多數を得たるに付き旁々以て安き心あき折柄ソールズベリー侯が泰然として國會の解散すべき恐れなき旨を演說せしかば幾分か安堵の思ひを爲したれども尚ほ充分眉を開く能はず蓋し自由黨の勢力退々昌盛に赴むくよもせよ議院の解散さへあくば前總撰擧以來自由黨議員の增したるみと僅か八名ゑ過ぎざるが故に今暫らくの間は保守黨の爲め敢て恐るゝに足らざるべけれども大勢既ゑ自由黨に歸したる今日若し議院の解散する事あれば保守黨の運命も夫まであるゑと勿論なれば解散を恐るゝの一事ゑ至ては獨り聯合自由黨員の同樣なるべし在朝黨は昨夜の議席ゑ一昨夜よりも尚ほ一層の多數を得んと充分盡力したりしが其割合には增加せず一昨夜バルフォア氏(愛蘭事務大臣)の俸給を減せんとしたる反對黨の動議に對し之を否とする在朝黨の多數は六十一ゑして昨夜ウェブスター氏に對するの動議を否とせしは八十なり昨夜最も人を感せしめたるもの〳〵一はバーチル氏がウェブスター氏の議論に對する答辯にし氏は熱心と勇氣を以て公平ゑ辨駁したりウェブスター氏の議論即ちハーコート氏の攻擊ゑ答へて酷次バーチル氏ゑ及びし演說も聞き所あきに非ざれども爲めゑ自分及び在朝黨を庇護するよりは却て政府がバーチル氏を傷けんとしたる行爲(バーチル審問事件に付ての行爲)に對して同氏を憐ひの輿論を强めたるもの〳〵如しバーチル氏は先きに審問事件の證據人席に於て左る書翰を認めたるみとあるきのみあらず曾て輿り知らざる旨を擅ふたりと最も沈着ゑ辨解し之に付てウェブスター氏は更に疑問を再びするとあかりも在朝黨下院の首領スミス氏の病氣は兎角快方に赴むかざる樣子にて上院ゑ轉ずるも遠からぬ内なるべく下院の保守黨員は氏が下院に於ける在朝黨首領として盡力したるを謝するの書ゑ調印中あり元來スミス氏は商賈上の經驗と能力を以て政務ゑ與るの外特に人ゑ超えて偉積を顯はしたるとなけれども其病を憂ふるの情は保守黨外の議員も亦同樣なり聯合自由黨の議員ラッセル氏は愛蘭に於て沒取されたる地面を耕さん爲め相應の補助金を與へてアルスター(愛蘭の極北)若しくは蘇蘭より農夫を移住せしめんと計畫し既ゑ同氏の友人中ゑ篤識中なり右はランカシャーの紳士某氏の勤告より事起り某氏は補助金として一千磅を捐金せり補助金の利子は四朱にして移住農夫が充分耕作するに相當の額を貸與する筈なり此計畫若し實行さるゝに至らば此まで愛蘭人民が常ゑ利用し來れる强迫手段(プラン オフ カンペーン)も無効とあるべく更ゑ他の騷動を生ずるに至るべし而してアルスターの農夫中には此方法によりて移住せんと欲し既に申込みたるもの少からずと云ふランカシャーの内ゴルトン區の下院議員ヒーコック氏はグラッドストーン派ゑして先頃死去せしかば其補欠を撰擧したるに保守及び聯合黨の候補者ハッチ氏に對しグラッドストーン派のマザー氏が八百四十六の多數ゑて勝利を得たり

○大坂獨立黨　此程の本紙に掲載せる如く大坂獨立黨の人々中重もなる部分ゑは此度大同派ゑ合同すべしとの決心を爲したるものあれども他の同黨員中頗ゑ之れが非擧なるみとを抗爭するものあり未だ同黨全體が大同派に合するや否やは判然せざる所なるが昨今ゑ至り其重もなる人々中には又候合同の決心を綜り戻したる向きもありと云ふ但し來る五月三日東京に於て僅はすべき大同團結の大會には同黨員森作太郎、伊藤德三、山下重威幷ゑ目下滯京中ある東尾平太郎の諸氏來會する筈にて其主意は先づ右大會の模樣を見、併せて大同派中重もなる人々の言論運動等も親しく見聞したる上果して合同すべきやを慥かめんとするにあるゑし聞く所ゑ據れば以上の諸氏が右大會ゑ參集するに關しても同黨員中種々の議論ありて是非一ならず反對說の重もなるものは大同團結派の言論と運動とは已に世人の克く了知する所にして更らに陰微に屬せるものあるみとなし然るに親しく同派ゑ重もなる人々の言論幷に運動を見聞して進退を決せんとの主意を以て大會に列するは迂遠の甚しきものゑて今の世ゑ立ちて政海ゑ遊泳せんと欲するものゑ振鮮ゑあらず諸氏ゑして集會するならば大坂獨立黨の肩書を脱して集會すべし然らずんば世人をして大坂獨立黨は自ら獨立するの力あきが爲め同黨員は當時日の出の勢ある大同派に身を寄せて其餘光を藉るものならん云々の疑惑を生せしむるに過ぎざるべしあと云ひ之れを贊する重もなる說は大同團結派は素と一定の涙論あれども其内には種々なる分子あり て將來の成行如何も今日ゑ於て豫言すべからず兎に角五月三日の大會には同派の人々一堂ゑ會する事あれば之に列席して先づ同會の模樣を視、尚ほ其重なる人々は勿論末流末派の人々の說く所、抱持する所幷に運動する所を見聞し同派の狀勢を觧かゑして然る後に進退を決するゑと智者の事なり云々と云ふにありと

○海防艦の構造　昨年の十月より製造方に着手せし海防艦橋立號は此程漸く下層部の構造を終り近々中層部の工事に取掛る由全體同艦の構造は他艦と異にして上中下三層各々一の船體をなしたとへ上層部砲撃せらるゝも下部の器械ゑ破損の患を及ぼすなく又下部破損の爲めゑ上部迄沈沒するの患なき仕掛ありと今其構造の要點を擧れば垂線間の長九十メートル、最大幅員十五メートル五百四十ミリメートル、平均喫水六メートル五十三ミリメートル、深さは中甲板線線より龍骨上部迄八メートル百十三ミリメートル、下甲板線線より龍骨上部迄四メートル、排水量は四千二百七十七噸五三三、馬力は五千四百、速力は十六海里、烟筒一、檣一、水雷發射管四個、横砲十二門連射砲六門、大砲は卅二檣一門、十二檣十六名なるが甲形に類似

○農會と農學會　大日本農會及び大日本農學會のみ偏するを如し曾に報告あり横鎮農場の如き又は其會員に關する其筋の可き程の勢力しとして昨今夫

○銀行と絹物　正に付一圓七も拙なからず雷鳴掃立の前方に盡力するち物の相場を引るは不審の一

頃銀行局檢査取糺すゑ先づ此邊の銀行を爲すを以て支あき樣用意れたるが故ゑ聞りと云ふまか

○帝國議會の集議院の方は傾斜したる爲ゑ聞したるが再び工事を

○水産會員　於て大日本水ゑ付き同日午の總親會を開

○高知の近況　自由黨及び者撰擇ゑ奔走次第に熱度何時も騷擾、巡とだも申すべ妙にして昨今安藝兩郡)は岡、吾川三郡に高陽會派の人を隨へ前記抔打開さし爲れば今は高陽る樣子、若し事あらんには勝を制せんと云々との風說の話頭に上の戸長たりし之候全體氏は

十分、九時十五分、午前六時、十一時十五分、午後二時十五分、九時十五分、十一時十五分、午後二時十五分、十一時、十一時十五分、午後二時十五分、十一時、十一時十五分、午後二時十五分、十一時